2020
1
No.316

『だれもが　その人らしく　安心して暮らせる福祉社会の実現』をめざして

いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki

ふくし“きらり人。”任命しました!

ふくし“きらり人。”桐原 奈緒也さん

ふくし“きらり人。”とは―

福祉の仕事に対するイメージアップを図るため、福祉施設や事業所で働く方や福祉を学ぶ学生のうち、きらりと輝く人物を“きらり人。”として任命します! 今後、“きらり人。”には、県社協の実施する事業を通じて福祉の魅力を伝えていただく予定です。

この度の令和元年台風19号で被災された皆様にお見舞い申し上げます。

CONTENTS

2 3 新年のご挨拶
生活福祉資金の貸付制度について　ほか

4 5 特集
・茨城健康福祉祭「いばらきねんりんスポーツ大会」を開催しました。
・令和元年台風第19号に係る災害への対応　ほか

6 7 地域福祉活動レポート
県央地区こども食堂ネット「おかえり」

8 9 ふくし“きらり人。”
桐原 奈緒也さん

10 市町村社協職員リレートーク

11 インフォメーション

12 わかち合おう小さな善意

はんどちゃんの紹介

はんどちゃんは、「福祉コミュニティづくり県民運動」のキャラクターとして茨城県社会福祉協議会、茨城県内の市町村社会福祉協議会を中心に活躍しています。

この広報誌は一部赤い羽根共同募金の配分を受けています。

ふれあいネットワーク
社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

新年のご挨拶

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
会長　森　戸　久　雄

新年明けましておめでとうございます。

茨城県社会福祉協議会の活動に、日頃から深いご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

幾多の台風の襲来により、亡くなられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被害に遭われました皆様に心よりお見舞い申し上げます。平穏な日常生活を取り戻すことが出来るよう、一日も早い再建をお祈り致します。

令和の新しい時代を迎えたこの日本では、人口が減少し、急激に高齢化率が上昇するなど、社会をとりまく環境が大きく変わってきております。これまで支えられる立場であった高齢者が、親の介護を行うようになり、障害者も高齢化していきます。子育ても親の介護もしている若い人たちも増えています。

また、家族関係や社会環境の変化により、引きこもりや子どもの貧困なども大きな問題です。

さらに、自然災害が多発する中、ボランティア活動や地域の支え合いが一層重要です。

こうした変化に対応していくためには、子どもも高齢者も、障害のある人もない人も、全ての人が、お互いを大切にし、支えあい、誰もが尊厳をもって、生き生きとした人生を享受できる「共生社会」を実現していかなければなりません。

また、人口減少による福祉・介護分野の人材不足は、本県も含め全国的に深刻な状況です。すべての利用者が安心できる、安定した福祉サービスを続けるためには、人材の養成・確保に取り組まなければなりません。

茨城県社会福祉協議会は、社会の変化に対応しながら、引き続き地域の皆様と連携し、「誰もが　人として尊厳を持って　その人らしく　安心して暮らせる福祉社会の実現」をめざしてまいります。

今後とも、皆様方の力強いご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年も皆様にとりまして、明るい笑顔が多く見られる年となりますよう、ご祈念申しあげまして、新年のご挨拶といたします。

令和元年度 福祉教育推進セミナーを開催しました。

10月30日(水)茨城県市町村会館において福祉教育推進セミナーを開催しました。

日本福祉大学教授野尻紀恵先生の講演、茨城キリスト教大学の池田幸也先生のコーディネートによるシンポジウム等を行いました。

県内から社協職員や教職員等71名に参加いただきました。参加者からは、福祉教育の大切さや人と人とのつながりの重要性が実感できてよかったなどの感想をいただきました。今後も、県内の福祉教育担当者との連携や内容の充実を図ってまいります。

福祉教育推進セミナーの様子

令和元年度 福祉サービス苦情解決研修会開催のお知らせ

茨城県運営適正化委員会では、福祉サービスの利用者等からの苦情に適切な対応をするため、事業所の福祉サービス苦情解決責任者等を対象とした、苦情の現状や解決方法についての研修会を開催しています。

今年度は、令和2年3月3日(火)に、小美玉市小川文化センターアピオス大ホールで行う予定です。

なお、研修会の詳細や参加申込方法につきましては、1月下旬に本会ホームページでご案内いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

問 福祉事業部 TEL:029-244-3147（直通）

各種事業のご案内

生活福祉資金貸付制度について

「生活福祉資金貸付制度」は、低所得、障害者及び高齢者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の助長促進、また在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるようにすることを目的とした貸付制度です。

■貸付対象世帯

生活福祉資金の貸付けの対象となる世帯は次のとおりです。

世帯区分	対　象　世　帯	所得基準※1
低所得世帯	独立自活に必要な資金の融通を他から受けることが困難であると認められる世帯	生活保護法にいう生活扶助基準の概ね1.7倍以内
障害者世帯	障害者※2が属する世帯	償還の際に生活保護基準以上の生活の見通しが立てられること
高齢者世帯	日常生活上療養又は介護を要する※3 65歳以上の高齢者が属する世帯	生活保護法にいう生活扶助基準の概ね2.5倍以内

◎「障害者世帯」・「高齢者世帯」の方からの申請は、借り受ける世帯の障害者または高齢者の本人のために利用される場合に限ります。
◎本制度は他法他制度のご利用が優先されるため、本制度をご利用いただけない場合がございます。

※1　所得基準…お住まいの市町村や世帯構成の年齢、人数により異なります。対象世帯に該当するか否かは、市町村社協にお問い合わせください。
※2　障害者……原則として身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方。または障害者総合支援法によるサービスを利用している等これらと同程度と認められる方。
※3　日常生活上介護を要する状態…介護保険法にいう「要介護1」以上。

■資金種類

福祉資金、教育支援資金、総合支援資金、不動産担保型生活資金等がございます。これらの生活福祉資金については、県社協ホームページもしくは、お住まいの市町村社協、または県社協にリーフレットがございますので、ご参考にしてください。

■お問い合わせ

生活福祉資金貸付制度に関するお問い合わせは、お住まいの市町村社協または県社協にお問い合わせください。

社会福祉事業従事者研修システムをご利用ください！

県社協では、茨城県内の社会福祉施設・事業所等に従事する役職員の資質の更なる向上を図るため、テーマ別・階層別にさまざまな研修を実施しています。

研修の参加申込みには、研修システムをご利用ください。

会員事業所の皆様には、すでに研修システムのID・パスワードを郵送でお送りしております。また、非会員事業所の皆様は研修システムをご確認の上、研修システム利用申込みをお願いします。

研修システム登録方法

県社協ホームページ内

をクリックしてください。

問 福祉人材・研修部 TEL：029-244-3755（直通）

インターネットで「福祉のお仕事」検索

茨城県福祉人材センターでは、茨城県から委託を受けて、福祉・介護・保育など、福祉分野全般の無料職業紹介を行っています。

来所による窓口での相談の外、インターネットを通じて、「福祉のお仕事」ホームページからの求職登録も受け付けています。

「福祉のお仕事」ホームページでは、求職登録の外、福祉の資格に関する情報や、福祉に関する統計情報なども掲載していますので、是非ご利用ください。

福祉のお仕事　検索

茨城健康福祉祭「いばらきねんりんスポーツ大会」を開催しました

令和元年10月23日（水）、那珂総合公園で「いばらきねんりんスポーツ大会」を開催しました。

この大会は高齢者に適したスポーツを通じて健康の保持増進を図るとともに、地域間の交流を深め、明るく活力のある長寿社会の推進に寄与することを目的に開催しています。

本年度も、各市町村から選ばれた選手及びチームの約1,000名により、クロッケー、ゲートボール、ペタンク、グラウンド・ゴルフ、輪投げの5種目を実施しました。

当日は、雲ひとつない快晴でした。開催地である那珂市先崎光市長より、激励の言葉を頂戴した選手達は各会場にて、熱い戦いを繰り広げるとともに、大会で知り合った選手とで交流いたしました。

本大会の結果、ゲートボールは優勝チームのあけぼの（石岡市）、ペタンクは優勝チームの寺具元気クラブ（つくば市）、グラウンド・ゴルフは上位6人が、令和2年度開催の第33回全国健康福祉祭ぎふ大会（ねんりんピック岐阜2020）に出場することが決定しました。

那珂市先崎市長による開会あいさつ

選手宣誓をする選手

グラウンド・ゴルフの様子

ねんりんピック紀の国わかやま2019が開催されました

「あふれる情熱はじける笑顔」をテーマに、第32回全国健康福祉祭和歌山大会（ねんりんピック紀の国わかやま2019）が11月9日（土）から11月12日（火）まで、和歌山県内21市町村を会場に開催されました。大会には、各都道府県と政令指定都市から集まった選手監督ら約1万人が出場し、スポーツ・文化活動あわせて27種目で交流を深めました。

茨城県選手団(団長：森田百合子茨城県社会福祉協議会常務理事）は選手監督、応援含め約150名が参加。サッカーや卓球、将棋など20種目に出場し、和歌山の地で熱い戦いを繰り広げました。

本県選手団は、ソフトテニスが優勝、水泳は100m混合メドレーリレー（280歳以下の部）で1位、個人でも4名の方が1位、サッカーはブロック優勝、卓球は第3位、なぎなた、太極拳、剣道、ゲートボールは優秀賞になるなど、本県選手団は今年も輝かしい成績を収めました。

「がんばっぺ！茨城」を合言葉に颯爽と行進する茨城県選手団

介護用品　販売　レンタル

有限会社 ヨ シ フ ク

介護保険指定：福祉用具貸与事業所
：居宅介護支援事業所

水戸市酒門町 1437-3
TEL 029-248-5307
FAX 029-248-0086

令和元年 台風第19号に係る災害への対応

福祉救援対策本部の会議の様子

台風19号による猛烈な雨の影響により、茨城県内各地で甚大な被害が発生しました。

茨城県社会福祉協議会では、10月13日（日）午前10時30分、茨城県社会福祉協議会福祉救援対策本部及びボランティア支援本部を設置。被害の大きい市町の社協に職員を派遣し、現地調査や今後の市町災害ボランティアセンター設置・運営に向けた協議を行いました。

14日以降、水戸市、常陸太田市、ひたちなか市、常陸大宮市、大子町の5か所で災害ボランティアセンターが設置され、県社協職員及び県内市町村社協職員が現地でのセンターの運営支援にあたりました。

■茨城県社会福祉協議会の主な活動

○茨城県社会福祉協議会の役職員派遣

県内被災地の社会福祉協議会への支援を行うため、10月13日から11月30日までに延べ186人の役職員を派遣しました。

○県内市町村社会福祉協議会の職員派遣調整

県内各被災地に設置された災害ボランティアセンターの運営支援を行うため、茨城県社会福祉協議会と県内市町村社会福祉協議会で締結している「社会福祉協議会における災害時支援に関する協定」に基づき、市町村社協職員の派遣を要請し、10月15日から11月30日の間に派遣された延べ1,171人の職員が支援にあたりました。

○その他

パソコン、スコップ、高圧洗浄機、デッキブラシなど、災害ボランティアセンターの運営に必要な資機材の貸出しなどを行いました。

災害ボランティアセンターへ資材を提供する様子

災害ボランティアセンターでの受付の様子

被災地では、復旧・復興へ向けての活動が現在も行われており、引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

第69回茨城県社会福祉大会の開催中止について（お詫び）

令和元年10月25日（金）に「ザ・ヒロサワ・シティ会館」において開催を予定しておりました「第69回茨城県社会福祉大会」につきましては、台風第19号による県内の被害状況をふまえ、各社会福祉協議会による災害対応を優先させるため、やむなく中止とさせていただきました。ご臨席を予定いただいておりました皆様に、深くお詫び申し上げます。

ここに、社会福祉事業功労者として受賞されました皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、永年のご尽力に深く敬意を表します。また、中止に伴い、紙面での祝意をお伝えすることの失礼を重ねてお詫び申し上げます。

はんどちゃんネットワーク運動
地域福祉活動レポート!
令和元年11月7日取材

県央地区こども食堂ネット「おかえり」（水戸市）

県央地区こども食堂ネットワーク『おかえり』の共同代表・古山均さん

こども食堂をつなぐネットワークの構築

「県央地区こども食堂ネットワーク『おかえり』は、2018年10月に発足したこども食堂をつなぐネットワークです」と語るのは、同団体の共同代表を務める古山均さん。さらに古山さんは設立に至った背景について次のように続けます。

「2018年10月24日に、こども食堂の名付け親である近藤博子さんの講演会を水戸市五軒市民センターで開催しました。講演会当日は茨城県県央地区のこども食堂の関係者や、こども食堂をはじめようと考えている方、また社会福祉協議会の職員の方々が参加し、講演会後の交流会では、参加者同士でさまざまな情報交換が行われました」（古山さん）

この交流会には約40名が参加し、予定時刻を過ぎても情報交換が続いていたといいます。

「これまで県央地区では、こども食堂に携わる方々が情報交換をする機会がありませんでした。そこで、みなさんが定期的に集まり、悩みや情報を共有することで、よりよいこども食堂が運営できるのではないかと考え、県央こども食堂ネットワーク『おかえり』を立ち上げたのです」（古山さん）

「おかえり」の活動やこども食堂の現状

現在、「おかえり」には、水戸市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、小美玉市で活動している13カ所のこども食堂が加入し、2カ月に一度集まってミーティングをするなど、個人・企業問わず多くの方々が参加し、情報・意見交換を行っています。こうした「おかえり」の活動やこども食堂の現状について共同代表を務める岡部佳代子さんと横須賀聡子さん、さらに現在『おかえり』の事務局となっている『NPO法人セカンドリーグ茨城』の中村三郎さんは次のように語ります。

提供いただいた食材を「わけっこ」

「2016年7月から水戸市の城南病院敷地内で『にこにこ食堂』を運営しています。こども食堂はその運営に必要な資金や食材など、ご支援いただくみなさんの協力やご支援があって成り立つものです。『おかえり』を立ち上げたことで、食材をご提供いただく方々の輪も広がりましたし、なにより、その食材をこども食堂同士で分け合うことができるようになったのは、ネットワークを設立したことに大き

頂いた食材を「わけっこ」している様子

県央地区こども食堂ネットワーク『おかえり』の共同代表・岡部佳代子さん

な意義があると思っています。こども食堂は、こどもがひとりで安心して入れる場所として機能するだけではなく、地域の皆様が集まれる場になれば良いと思っています。そして地域の方々にも参加していただくことで住民同士がつながり、子どもたちを見守る、『地域の目』が広がっていくといいですね」（岡部さん）

多くの人が関わり作り上げる場所

「私は、『310食堂実行委員会』のスタッフとして水戸市内の『マチノイズミ』『Caféリベル』『食と農のギャラリー葵』の3カ所でこども食堂を運営しています。現在では毎月第3土曜日にボランティアの方も含めて約55名の方々にご協力いただき、子どもからご年配の方まで多くの方に利用していただいております。こども食堂はボランティアや地域の方々、そして支援していただく団体・企業・個人のみなさまなど、みんなが関わって作り上げていく場所です。『おかえり』が立ち上がり、ほかのこども食堂やその関係者の方々との交流や情報交換ができるようになったのは大きいですね。今後もいま以上に食を通して人が集う場所を作り、昔ながらの横のつながりが今の社会に合わせてつなぎ直せればと思っています」（横須賀さん）

世代間交流が生まれる集いの場

「こども食堂は場所によって料金やコンセプトもさまざまですが、県央地区のこども食堂に地域の方々が集い、世代間交流が生まれる場所になれば良いですね」（中村さん）

『NPO法人セカンドリーグ茨城』の中村三郎さん

こども食堂の課題と今後の目標

最後に「おかえり」の今後の取り組みや課題について古山さんにお話を伺いました。

「こども食堂のような機能は、子どもたちが自分の足で歩いて行ける距離に1箇所構えることが理想だと考えています。今後も手探り状態ではありますが、まずはとにかく挑戦してみること。そして、県内にきめ細かくこども食堂の輪を広げていきたいですね」（古山さん）

茨城でもその輪が広がりつつある「こども食堂」。食を通して地域をよりよくしたいというみなさんの想いがここにはありました。

県央地区こども食堂ネットワーク『おかえり』の共同代表・横須賀聡子さん

地域の集いの場でもある『310食堂』

『にこにこ食堂』では子どもから大人まで楽しく食事！

『にこにこ食堂』のメニューの一例

ビュッフェスタイルの『310食堂』

ふくしきらり人。

桐原奈緒也（きりはらなおや）さん

社会福祉法人オークス・ウェルフェア
特別養護老人ホームオークス東海（東海村）

社会福祉法人オークス・ウェルフェアの「特別養護老人ホームオークス東海」でユニットリーダーを務める桐原奈緒也さん。福祉の仕事に就くきっかけや仕事のやりがいについてお話を伺いました。

「人と関わる仕事がしたい」と福祉の道を決意――

「もともとは神奈川県で飲食業に就いていましたが、実家の茨城に戻るタイミングで色々な資格を取得しようと思っていました。そんなとき、ふとテレビでヘルパー２級の養成講座CMを見て、『やはり人と関わる仕事がしたい！ その人が求めているものを引き出して答えを見つける仕事がしたい！』と想い、すぐに申し込みました」と福祉の道を目指すきっかけを振り返る桐原奈緒也さん。

もともと人と話すのが好きで、飲食業で培ったお客様の笑顔を引き出すスキルは介護でも役立つと考えていたと同時に、「自分が知らない高齢者や障がいのある方の世界がどういうものなのか、興味があった」と語ります。

ヘルパーの資格取得後は、高齢者施設で現場実習を行い、その後、障がい者施設で３年間介護士としてのスキルを磨き、現在は「オークス東海」でユニットリーダーとして利用者様の支援をはじめ、スタッフの教育や指導を行っています。

利用者の笑顔を引き出す！

介護とは利用者の人生に関わる仕事

日々、福祉の現場で利用者に真摯に向き合っている桐原さんですが、利用者の笑顔を引き出すためにコミュニケーションを重ねると同時に自らもやりがいをもって仕事をしています。

「この仕事に就いて、辛いとか、辞めたいとか思ったことは一度もありません。日々楽しみながら仕事を行い、もちろんときには失敗もしますが、その反省を次に生かし、プライドをもって仕事をしています。それと同時に、利用者が一番幸せと感じることはなんだろうと考えているときが仕事のやりがいでもあります。高齢者介護とは、いうなれば人生のエピローグ。利用者がよりよい人生を送るためにはどうすればよいのか。息づかい、目線など、利用者の日々のちょっとした変化に気づくことが大切だと思っています。そのために日々のコミュニケーションをはじめ、自分に足りないスキルがあれば学び、そして仲間とともに知恵を出し合っています。

当然、介護は一朝一夕でできる仕事ではありません。重要なのは、ひとつずつ階段を上ることだと思います。たとえば、リハビリでそれまでの症状が改善すれば次のステップに進み、また次の介護方法を考え、実践する。こうしたひとつずつの積み重ねが利用者の生活を豊かにするものだと思いますね」（桐原さん）

事業所の枠を超えた福祉の活動

桐原さんは、現場だけではなく、いばらき中央福祉専門学校が運営している「いばふく（茨城を福祉で元気にするプロジェクト）」で福祉の魅力発信や普及・啓発活動も行っています。

「いま、若手の介護士の方や外国人の技能実習生の研修など、介護技術の講師を務めさせていただいていますが、生徒さんから学ぶことも多いですね。福祉の現場での率直な疑問や不安を投げかけてもらい、それを少しでも解消し、不安を取り除けたときの表情をみるものやりがいのひとつですね」（桐原さん）

そして、今後のビジョンについて桐原さんは次のように語ります。

「まだまだ福祉の仕事を知らない方も多いと思いますので、ゆくゆくは事業所の仲間だけでなく、この枠を超えて、私がこれまで培ってきた介護の知識や技術を多くの方々に伝え、地域の方々に福祉の素晴らしさを知ってもらう活動をしていきたいですね」（桐原さん）

最後にこれから福祉の道を目指す方にメッセージをいただきました。

「サービスの質を向上すると満足度も向上する。福祉の仕事はウェディングプランナーと同じだと思っています。人を楽しませるのが好きな方は向いていると思いますね。利用者一人ひとりに個性があり、それぞれに合った介護を通して多くの方の笑顔を引き出すクリエイティブな能力や発想力も求められているのではないでしょうか」（桐原さん）

より輝かしい未来に向かって日々現場で働く桐原さん。利用者と笑顔で向き合っているひたむきな姿勢がここにはありました。

福祉の魅力を語る桐原さん

毎日の積み重ねが利用者の生活を豊かにする

市町村社協職員リレートーク

感　謝
～災害のつながる力～

常陸太田市社会福祉協議会
多賀谷　豊臣

台風19号による災害支援。常陸太田では、25日間の災害ボランティアセンター運営で、延べ2095人の災害ボランティア活動を行いました。

活動に参加してくださった多くの皆様、また、災害ボランティアセンター運営にご協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

この度の災害支援で、日頃のつながりが、いかに大きな力になるかを実感しました。

「シフト表を調整して今日は5人でボランティアに参加します！」社会福祉施設の方（夜勤もある職員さん大変だったと思います）

「元気ないぞ！声だしあって乗り越えよう！」励ましてくれたボランティアさん（涙出ました。いろんなこと書ききれません）

「何かできることあったら遠慮なく言って！何でもするから！」ボランティア連絡協議会役員さん

「無理すんな！体壊したらだめだよ。俺たちに任せな！」市町村社協の仲間たち（あらためて横のつながり・仲間は大切です）

「システム作りたいので遅くまで残っていいですか？」県社協からの支援（このデータがとても役立った！）

「時間がかかっても、被災された方のお話をきちんとゆっくり聞こうよ！」地域おこし協力隊（彼はセンター運営に協力しながら避難所や地域を歩いていた）

「バックアップはしっかりやりますから、必要なものがあれば何でも言ってください！」全国社会福祉協議会、共同募金会の方々が駆け付けてくれて資金面での安心をくれた。

「足りないとお聞きしている資材をお届けします！」県南から来てくれた青年会議所の会長。夜9時を過ぎていた。

「特に支援が必要な方の所に行かせてほしい」休暇を取って参加した市職員。

センター運営は一区切りしましたが、まだ災害支援の途中でこの原稿を書いています。

今後検証しなければならないことやきちんと残すべきことがたくさんありますが、心に残っている言葉のほんの一部だけを書きました。

またこれからも私たちの活動は続きます。つながりから結ばれた絆を大切にしたいです。ありがとうございました。

次回は、那珂市社協の浅野健一さんにバトンを渡します。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成31年度

ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険　検索

保険金額

保険金の種類＼プラン		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円（限度額）	1,400万円（限度額）
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術保険金 入院中の手術	65,000円	100,000円
	手術保険金 外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額（保険金額）に同じ	
	葬祭費用保険金（特定感染症）	300万円（限度額）	
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）	5億円（限度額）	

年間保険料（1名あたり）

タイプ＼プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ（※）（基本タイプ+地震・噴火・津波）	500円	710円

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

（※）天災 タイプでは、天災（地震、噴火または津波）に起因する被保険者自身のケガを補償しますが（天災危険担保特約条項）、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者　社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3を除きます。）

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667　FAX：03（3581）4763
営業時間：平日の9:30～17:30（12/29～1/3を除きます。）
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJNK18-13568　2019.1.16作成〉

INFORMATION

お知らせ　県民サロンコンサートを一度、聴きに来ませんか

総合福祉会館１階県民サロンにおいて、ボランティア演奏家による「県民サロンコンサート」を毎月開催しています。

総合福祉会館の吹き抜けロビーで懐かしい名曲やクラシックなどお聴きいただくことができ、気軽に音楽に触れることができます。

お昼のひと時を総合福祉会館でお過ごしになってはいかがでしょうか。

詳しくは茨城県総合福祉会館ホームページに県民サロンコンサートの情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

茨城県総合福祉会館ホームページ
http://www.wel-ibaraki.jp/

問 茨城県総合福祉会館
TEL：029-244-4545

募集　本会会員を募集しています！

茨城県社協の趣旨・目的にご賛同いただける会員の方を広く募集しております。

会員の皆様からいただいた会費は、県内の地域福祉向上のために活用させていただきます。

■会員種別

・正会員
県社協の趣旨・目的に賛同する社会福祉施設及び社会福祉団体等

・賛助会員
茨城県社協の趣旨・目的に賛同する個人または団体等

■会費

県社協の規程に従い、所定の会費を納入していただきます。

■会員特典

①県社協の実施する「社会福祉事業従事者研修」について、優先的に申し込むことができます。また、一部の研修を除いて、受講料が非会員に比べて2,000円/1日安くなります。

②民間社会福祉施設職員等退職手当支給制度に加入できます。

問 総務企画部
TEL：029-241-1113

募集　きずなBOXを設置しています！

生活困窮者支援団体等への安定的な食品確保のため、NPO法人フードバンク茨城と連携し、茨城県総合福祉会館の１階に「きずなBOX」を設置しています。

家庭で余っている食品などを「きずなBOX」に持ち寄っていただき、集められた食品などをフードバンクが回収し、福祉団体や施設、市町村社協を通じて生活困窮家庭などに配分しています。

昨年１年間で63kgの食品が集まりました。ご協力ありがとうございました。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

＊食品は常温管理できるもので未開封、賞味期限が２か月以上残っているもの
＊生活困窮者への支援に必要な、缶詰・レトルト食品などすぐに食べられる「おかずになる」食品が不足しています。

茨城県総合福祉会館 ご利用案内

茨城県総合福祉会館のコミュニティホール（定員296名）や各種研修室は、一般の方にも貸し出しを行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

また、駐車場の混雑状況はホームページでご案内しております。
ご来館の際の参考としてください。

茨城県総合福祉会館　検索

〒310-0851　水戸市千波町1918　TEL 029-244-4545　FAX 029-244-4548

わかち合おう小さな善意　～みなさまからのあたたかいご支援を紹介します～

令和元年７月～令和元年９月　善意金などの預託と払い出し状況（敬称略）

善意金　合計 7,809 円

㈱ライズ	3,019 円
丸大食品（株）	4,790 円

（一財）関東陸運振興センター

交通遺児福祉基金　合計 1,100,000 円

（一財）関東陸運振興センター	1,000,000 円
茨城県自動車整備業界親睦ゴルフ大会	100,000 円

茨城県自動車整備業界親睦ゴルフ大会

善意品

いばらきコープ生活協同組合	子ども用紙おむつ 486 袋、大人用紙おむつ 27 袋	県内社会福祉施設
日産労連茨城地方協議会	チャリティーきゃらばん招待（3 施設 291 名）	県内社会福祉施設
早川ぶどう園	ぶどう狩り招待（31 名）	県内社会福祉施設
（公財）報知社会福祉事業団	プロ野球公式戦招待チケット（6 試合、各 12 枚）	県内社会福祉施設

使用済み切手・使用済みテレホンカード等

（株）風林	浅野　雄太	（株）ケアハーモニー
（株）三共建設　水戸営業所	全国納豆厚生年金基金	（株）常南部品商会
常陽ボランティア倶楽部	篠原　斐子	

茨城県保健福祉部　障害福祉課、長寿福祉推進課、福祉指導課

社会福祉協議会（つくば市、水戸市、城里町、日立市、石岡市、小美玉市、守谷市、東海村、神栖市、筑西市、五霞町、桜川市、高萩市、土浦市、取手市、大子町、常陸太田市、茨城町、北茨城市、龍ケ崎市、つくばみらい市、常総市）

いばらきの社会福祉
Social Welfare of Ibaraki
発行者／社会福祉法人　茨城県社会福祉協議会
〒310-8586　茨城県水戸市千波町1918
ＴＥＬ：029-241-1133（代）
ＦＡＸ：029-241-1434
ホームページ　http://www.ibaraki-welfare.or.jp
Facebook　https://www.facebook.com/ibarakikenshakyo
E-mail　ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp
携帯電話で読み取るだけで簡単に「茨城県社協 HP」にアクセスできます